

牛肉セーフガード協議に関する合意の概要

1. 米国へのセーフガード発動については、

- (1) 米国とTPP11締約国からの合計輸入量がCPTPPの発動水準を超える場合に発動する仕組みを導入。 ※1
- (2) この発動は、米国からの輸入量が米国単独の発動水準を超えることが条件。

2. 米国単独の発動水準は、

- (1) 現行の水準（CPTPP発動水準の約39%）を維持。
- (2) ただし、2026年度までは、米国からの輸入量が翌年度の発動水準を超える場合は、翌年度（2027年度まで）に限り、当該輸入量を発動水準とする。

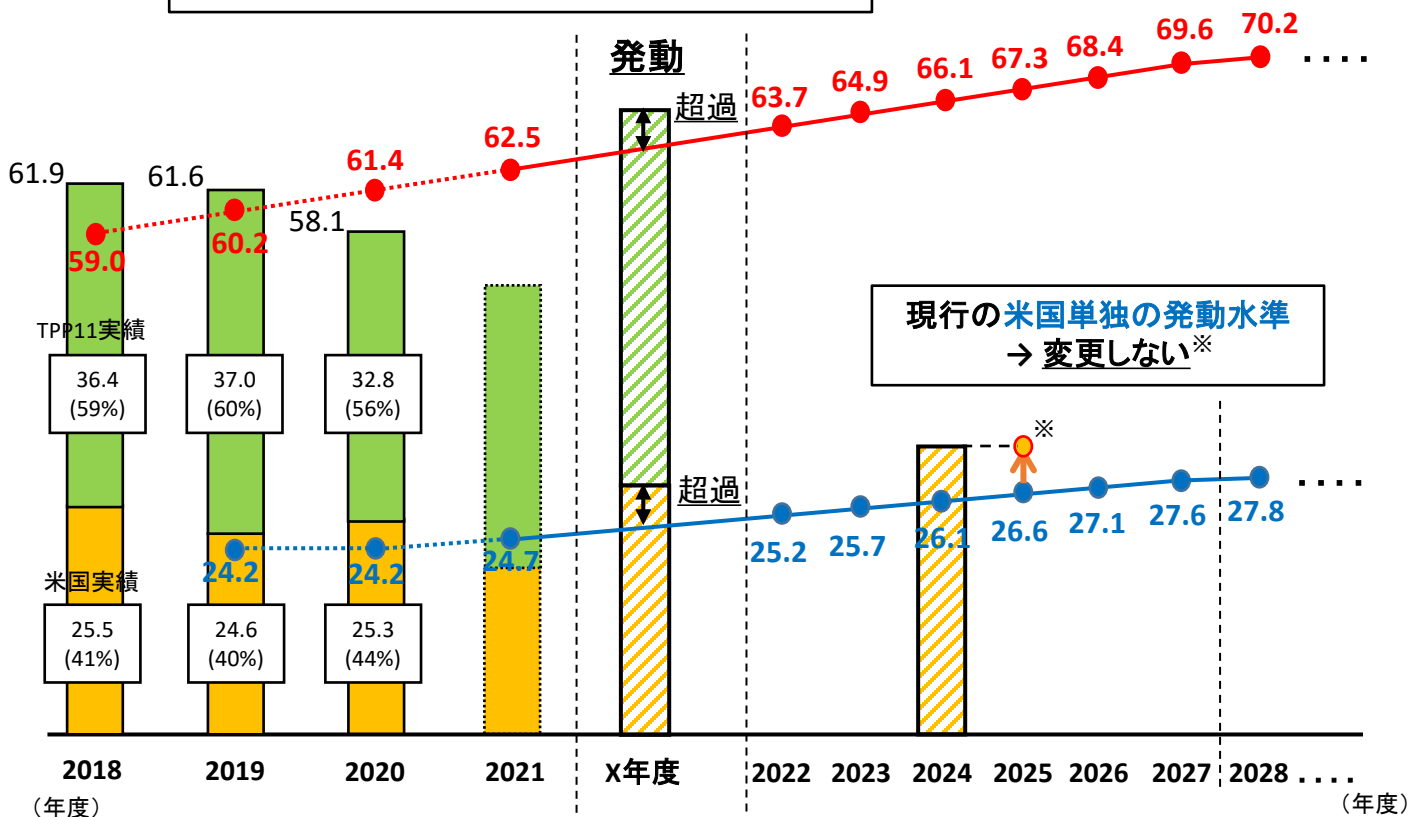
※1 この発動の仕組みは、期限なく日米貿易協定に基づくセーフガードに適用され、2028～32年度における四半期ごとのセーフガードにも適用。

※2 現行の日米貿易協定、日米間の協議に係る交換公文は、上記1、2の改正を除き、関税削減、セーフガードの発動（米国単独の発動水準を含む）を、そのまま維持。

※3 上記合意内容は、日米貿易協定の改正議定書として、国会承認を含む国内手続を経て発効することとなる。

米国とTPP11からの合計輸入量がCPTPPの発動水準を超える場合に発動。米国からの輸入量が米国単独の発動水準を超えることが条件。

(単位: 万トン)



※ ただし、2026年度までは、米国からの輸入量が翌年度の発動水準を超える場合は、翌年度(2027年度まで)に限り、当該輸入量を発動水準とする。